

学術研究実績報告書

申請書との変更点およびその理由(内容、日程、実施場所、参加者等で変更があれば記入)

当初の研究期間は、2020/02/03～2022/02/02 でした。しかしながら、新型コロナウイルスの影響で実験に取り組みず、2022年3月31日まで研究期間を延長した。

研究実績概要

研究代表者(申請者氏名・所属機関・職名):

林洋一郎・慶應義塾大学大学院経営管理研究科・教授

共同研究者(氏名・所属機関・職名):

佐々木宏之・新潟国際情報大学・教授

研究課題名:

研究期間:

2020年 2月 3日 ～ 2022年 3月 31日

概要:(1,000字以内で記述)

本研究は、理想の状態・期待と現状や現実との乖離・ディスクレパンシー(discrepancy)と適合(fit)という観点からモチベーションに与える効果を検証した。

はじめに、これまでのワーク・モチベーション理論をディスクレパンシーと適合という観点から理論的に展望した。ディスクレパンシーに関連する理論として、衡平理論、コントロール理論、セルフ・ディスクレパンシー理論などを取り上げた。これらの理論は、理想の状態・期待と現状・現実との乖離やギャップを知覚した個人が、そのギャップを埋め合わせようとして仕事に励むが、このプロセスがモチベーションの力になると説明する。

もう一つは、経験サンプリング法を使った実証研究である。この研究には、90名が参加した。経験サンプリング法とは、参加者に連続した日数で同じような質問をする方法である。今回の調査は、自己不一致が社会的比較やモチベーションに与える効果を明らかにすることを試みた。

個人は、理想の自己と現実の乖離を経験すると社会的比較を行うが、自分より優れた他者と比較する上方比較によってモチベーションは促進されるが、極端な上方比較の場合、モチベーションは減退するという非線形の関係が見られた。

研究成果は下記のとおりであるが、今回の研究をまとめて論文文化に努めたい。

林洋一郎・岡谷陸・今井裕紀(2022) 自己不一致知覚が社会的比較や態度に与える影響:

経験サンプリング法による分析 北海道心理学会・東北心理学会 第13回大会にて発表予定

\*研究実績概要は「野村マネジメント・スクール研究助成実績報告書」および財団ホームページに掲載します